人間ドック、インフルエンザ予防接種の助成 母体支部のスポーツ大会等へ補助 メタボ健診モデル事業にも参加 京都府建設業職別連合国保組合

京都府建設業職別連合国民健康保険組合(略称:職別国保)では、半日ドックやこれと併用して受診する脳・肺ドックに助成、年齢の節目を捉えての人間ドックは、無料で実施しています。インフルエンザ予防接種助成も利用者が増えています。また、構成団体である母体支部で実施しているスポーツ大会等への助成を行い、被保険者の日頃からの体力づくりの奨励を行っています。今年は特定健診・保健指導のモデル事業にも参加しました。





【国保の概況】

設立37年、被保険者の減少続く

職別国保は、昭和 45 年 7 月に職種別の協同組合、工業組合、合わせて 13 団体の連合組織として発足し、今年で設立 37 年になります。その間、構成団体の若干の出入りはありましたが、現在は、瓦、畳、造園、電気など建設業種 13 団体の職種別の連合組織で成り立っています。

設立当初、被保険者数は2万人を超えていましたが、急激な少子高齢化と不景気のなかで、業種によっては跡継ぎ問題などの課題をかかえ、転廃業、雇用削減などにより減少が続き、今年9月末現在の被保険者数は約8,100人に至っています。

【保健事業の取組み】

半日ドックの助成

指定医療機関で受診する半日ドックに助成をしています。対象は、35 歳以上の被保険者で、自己負担額は1万円。残りの費用は組合で全額負担しています。その半日ドックと同時に受診する脳ドックと肺ドックに対しても各1万円の自己負担で、残りの費用は組合で負担しています。受診することにより、発病前の早期発見にもつながり、医療費の節減や早期治療に効果があり、健康管理に重要な事業となっています。

また、毎年、4月~翌3月の年度内に40歳、50歳、60歳、70歳になる被保険者を対象に半日ドック(ジャスト健診)を無料で受診できるようにし、健診人口を増やすよう務めています。

インフルエンザ予防接種の助成

インフルエンザ予防接種事業を開始して3年目を迎えます。予防接種を受けた方に対して 一人 2,000 円を限度に助成を行い、重症化しないように援助をしています。 最近は、毎年のように新型のインフルエンザが流行し、その不安感から、インフルエンザの重症化を防ぐには大変有効であるということで、この助成への利用者が増えています。

無受診世帯に対する記念品の贈呈

1年以上の無受診世帯に対して、組合の財政運営への貢献に対する感謝の意をし、記念品を贈呈しています。

各母体支部で実施している健康づくり活動への助成

職別国保を組織する各母体支部が行っている、健康づくり、体力づくりを目的としたウォーキング、ソフトボール、ボウリング大会などに対して、一定の助成をしています。



健康増進施設など利用助成

スポーツ施設(京都テルサ) 温泉施設(京都エミナース)などの健康増進施設で体力・健康づくりに積極的に励まれている被保険者に対して利用の補助を行っています。また、「出産・育児」、「生活習慣病予防」など健康に役立つ冊子を定期的に配付し、健康意識の向上を図っています。

【最近のトピックス】

特定健診・保健指導のモデル事業に参加

府国保組合協議会(府内 11 国保組合と府支部の 1 2 会員で組織)が共同で行う保健事業については、これまで当組合も「血液さらさら教室」、「スリムでイキイキ教室」などに参加してきました。今回は、来年 4 月から実施される特定健診・特定保健指導に向けて、府医師会と連携してのモデル事業が実施され、当国保も参加しました。

共通の受診券や実施医療機関名簿を発行し、質問票と健診結果により階層し、レベルに応じた資料の提供、指導が行われました。

当組合では、100名の被保険者の方が健診の申込みをしましたが、そのうち、実に受診したのが最終的に約70名でした。来年4月から特定健診・保健指導が始まりますが、健診機関に何人が足を運ぶかが最初の関門となるので、受診しやすい環境づくりが必要だと考えています。

(被保険者数の年度末推移)

(人)

年度	組合員	家族	合 計
平成 16	3,385	5,386	8,771
平成 17	3,327	5,222	8,549
平成 18	3,234	5,013	8,247

(医療費、一人当たりの年間平均額)

(円)

年度	一 般	老人
平成 16	160,443	916,085
平成 17	172,978	991,268
平成 18	163,874	975,345